



すえ  
陶 範昭 議員

## 災害時一斉情報伝達手段の整備

**問** 三原地域では町内の一斉情報伝達手段として、拡声器や有線放送を利用して、有線放送は40年以上が経過し、新築の家屋には設置されていない状況で、カバラー率が年々低下し十分伝達できていない。故障や大がかりな補修にも大きな課題がある。

町内放送などの機能のある情報伝達としてFM告知端末の整備を三原地域でも推進すべきではないか。コミュニティFM局開局の見通しは。

**答** 本年度、久井地域のFM告知端末の更改及びセンター設備の整備を行い平成27・28年度で本郷地域、大和地域のFM告知端末の更改等を行う予定である。

29年度以降コ



FM告知端末 (イメージ)

## 交流・定住促進事業について

**問** 地域おこし協力隊は21年度から国が取り組んでいる事業で、25年度は全国で約千人の隊員が活動している。農林業の応援、住民生活の支援、地域おこしの提案と支援地域活動等へ関わり、3年間の任期後、56%が任地や周辺に定住し、地域の担い手となっている。

本市でも昨年度から隊員が頑張っている。地域おこし協力隊員の増員と拡大を検討しているのか。

**答** 25年度から地域おこし協力隊を、大和町と鷲浦町へ各1名配置している。

地域支援員は、本年7月からの設置に向け本郷・久井・大和地域へ地区連合組織と協議しながら配置の準備を進めている。活動状況や、地域の活性化に貢献できているかなど住民組織などと協議を重ねた上で、地域の配置希望を含め増員や対象地域の拡大を検討する。



たにすぎ よしたか  
谷杉 義隆 議員

## 農業施設も公共施設マネジメントを

**問** 本市は、2年間かけて公共施設マネジメントの策定に着手するが、建物ばかりが目立っている。また、橋等は既に改修計画が進んでいる。市道・農業・林業施設も公共施設マネジメント策定に位置付けるべきと考えるがどうか。

道路側溝では、頭首工部分は水が流れていても下流部分では流れていない状況や、農業施設の用排水路でありながら水は水路の下を流れている状況、また、林道の側溝に落ち葉がたまり道路を洗っている状況もある。

**答** 国の指針として建物のほか道路・橋梁等の土木・水道・下水道・プラント系施設等も含む包括的な計画が求められている。本市では、本年施設台帳などのデータベースを整備し、27年度に公共施設全体の基本的方針

と、総合管理計画を策定し、28年度以降に個別施設計画に着手する。

現在、道路側溝については、箇所数も多く、損傷が表面化してから事後の補修管理となっている。農業用施設及び林道についても膨大な数であり行政だけでは限界があり、多面的機能支払制度の活動組織や実際に営農活動に従事されている各組織等と連携を図り、他の自治体の危険箇所調査把握方法等を研究する。

施設全体の基本的方針

## 市道の法面対策を

**問** 本年度から共同で農道の管理修繕や畦畔管理作業等を実施した団体に対し補助金が交付されるが、高齢化が進む中で市道管理や環境整備で法面の草刈作業が年々困難となっている。また、作業には事故が隣り合わせである。

その対策として市道法面の高さ2m以上にはストップをつけて草刈作業がしやすい環境にすべきではないか。受益者負担ばかりでなく、管理責任がある市として取り組むべきと考えるがどうか。

**答** 本市では、ボラティア除草作業の活動支援として保険の加入・草刈機の燃料・替刃の支給、乗用草刈機の貸し出しを行うこととしている。法面自体に設置できる簡易的な足場材の使用などが考えられ、地域と協議し試行も含め研究する。

**問** 本年度から共同で農道の管理修繕や畦畔管理作業等を実施した団体に対し補助金が交付されるが、高齢化が進む中で市道



市道法面に安全対策を望む



おか  
とみお  
岡 富雄 議員

## 三原市北部の観光活性化について

**問** 三原市北部の観光客増加策として次の三点を聞く。

① 宇根山キャンプ場周辺には平日に行く和管理棟も閉鎖しており利用できるトイレが無い。管理棟等の既存のトイレを平日でも利用可能にできないか。

② 御調八幡宮も含めた三原北部地域の総合的な観光マップを作成してはどうか。

③ 宇根山山頂に広大なパノラマを楽しめる展望台を作ってはどうか。

**答** ① 久井地域には素晴らしい自然に囲まれた野外活動施設、天文台など県内でも有数の施設があり、このような地域資源を活用し、地域の活性化につなげていくことが重要であると考えている。現在、平日については管理棟、駐車場の門は閉鎖してありトイレは利用

できない状況になっているが、今後三原市北部の観光活性化を図る中で、宇根山家族旅行村については、平日も駐車場の門を開けトイレを利用できるように検討していく。

② 観光マップは観光客の選択肢を広げ誘客の可能性も高まることから本年度中の作成を予定している。

内容は道の駅よがんす白竜を起点としたドライブマップとし、施設案内や見どころポイントや北部地域の施設等を線で結び所要時間等を掲載した。観光客が必要とする情報を中心に作成していく。

③ 展望台については、観光誘客を促進する観光振興策のひとつではあるが様々な課題があると考えている。現状では、宇根山天文台などの既存施設を活用し誘客促進を図っていく。



宇根山山頂からの眺望

## 液状化現象被害の対策について

**問** 本市でも南海地震などの大地震による液状化現象によって、建物の倒壊や破堤による被害が発生すると想定されるがその対策は。

**答** 道路、橋梁については道路網の整備と安全性の確保を計画的に推進する。

河川については、地震による損壊や浸水を未然に防止するため、改修効果の大きい箇所、緊急度の高い箇所から整備改修を図る。



まさひら  
ともはる  
政平 智春 議員

## 居所不明の子どもの確認について

**問** 神奈川県厚木市のアパートで、白骨化した児童の遺体が発見された報道があった。

この子どもは、5歳のとき、2006年10月ごろ死亡したものと推定され、保護者である父親は、死亡したことを隠す工作をしていたことも報道されている。

さらに最近、亡くなる1週間前、父親の目の前で、痩せ細ったその子どもが「パパ、パパ」と何度も繰り返し父親を呼び続けたことも報道されている。

こういうことを未然に防ぐため、ことし2月26日に子どもの所在を確認する調査を行うことを厚生労働省が決定している。本市は、この調査の通達がいつごろ届いて、現在どのような対応をしているか。調査の方法はどのような内容なのか。

また、調査結果はどうであったか。

このような居どころのつかめない状態をつくらないために、本市としてどのような取り組みを行うのか。

**答** 所在調査への対応だが、4月25日付で県から住居実態が把握できない児童に関する調査の依頼が来ている。今年度内に2度調査を行うこととなっており、現在調査中だ。

調査方法については、住民基本台帳に記録がある児童を対象に、予防接

種などの未受診者や小・中学校、保育所などで連絡や接触が図れない児童について、関係課が転入、転出などの記録や学校、病院等関係機関への確認を行う。その上で、各課の調査結果を同一児童の重複がないよう調整し、訪問調査などにより所在の確認を行う。

調査の結果については調査中であるので、現時点では取りまとめができていない。

今後の方策については関係課はもとより警察、学校、病院等関係機関と情報共有及び相互連携の強化を行うとともに、見守り等地域の力を借りながら、所在不明児童の発生防止に努めていく。





寺田 元子 議員

## 要支援者の介護サービス外しやめよ 待機者あふれる特養の増設を

**問** 安倍自公政権のもとで多くの高齢者を介護サービスの対象から除外しようという大改悪が押し付けられようとしている。現在2020名の要支援認定者の介護給付外しについての本市の見解と対応について問う。

**答** 民間企業やボランティアを含めて提供できるような取り組み。特養ホームの待機者は年々増えている。介護保険料と密接に関係しているためバランスを考慮しつつ検討する。

**問** 現在、待機者が939名の特別養護老人ホームの増設を求める。

**答** 要支援者への訪問介護と通所介護が介護予防給付から市町村事業へ移



要支援者が通うデイサービス

**問** 国は今後、サービス付き高齢者住宅や有料老人ホームを受け皿として示しているが、月額の利用料は15〜20万円だ。特養待機者の多くは貧困や低年金者であり、今の制度の中では最も安心の「住み家」となるのが特養だ。増設計画をぜひ持つべきではないか。

**答** 特養入所待機者の増加は一人暮らしや高齢者のみの世帯の増加が挙げられる。アンケート調査など実施し分析の上で計画策定委員会で検討する。

## ごみ減量化でさらなる 指定袋料金の引き下げを

**問** 古紙・布類の再資源化をいつからどのように実施していくのか。本市がごみ袋で儲ける2490万円は税金の二重取りだ。手数料収入はごみ袋料金の引き下げに充てるべきではないか。

**答** 資源集団回収事業奨励金の引き上げや保管庫への助成制度新設は本年度中、さらに拠点回収実施は次年度をめどに進めたい。指定袋制度で減量効果がさらに進めば引き下げの検討も考えられるがリバウンド現象も懸念している。ごみ処理の経費は3億7千万円かかっており市は儲けてはいない。

**問** 住民とともにごみ減量化をやりとげ、手数料引き下げへの決意をもって取り組んでもらいたい。

**答** 行政としてもより再資源化、減量化が進む取り組みを市民とともに取り組んでいく。

**■その他の質問事項**  
●児童館の整備を急ぐべきについて



萩 由美子 議員

## 介護保険法第6次改正について

**問** 今回の改正は今後の少子高齢化や行政の厳しい財政状況の中で現在のサービスを継続するためと認識している。

平成27年7月に保険証とは別に自己負担割合を証明する書面を送る予定である。

本市には要支援1・要支援2の方が2020人いる。今回の介護保険法改正で要支援1・2の事業主体が国から市に移行するが、受けられるサービス内容や支払金額に変わりはないか。

来々年8月から介護保険の自己負担が2割になる方が対象の要件と通知する時期・方法を問う。

**答** 市の事業に移行しても財源構成は従来どおりなので大幅な変更はないと見込んでいる。自己負担割合2割の方は前年の所得の合計額が160万円以上の方が対象となる予定である。



介護保険被保険者証

## ピロリ菌感染検査を ワンコインで

**問** ピロリ菌は胃がんや胃潰瘍・胃炎の大きな原因とされ、50歳以上では80%近くの人が感染していると考えられている。がんの罹患率では胃がんが男性で1位、女性で3位である。研究ではピロ

リ菌を除菌すれば胃がんの発生率は3分の1になるとも言われている。現在、各地の自治体でピロリ菌の感染検査・除菌の費用補助・勸奨を事業化している。がんになつたなら肉体的精神的苦痛は計り知れない。財政負担も大きい。その苦痛を防止し、将来の本市の財政的負担も軽減するためには三原市健康診査で受けることができる検診にピロリ菌の感染検査を含めてはどうか。500円くらいで受診出来るようにしてはどうか。

**答** 厚生労働省が定めたがん検診実施のための指針やガイドラインではヘリコバクターピロリ菌抗体検査の有効性評価は低いとされ、奨励されていない。現段階では市の健康診査にピロリ菌感染検査を導入することは考えていない。今後、他市の導入状況や厚生労働省の指針等の情報を収集し、研究していく。

**■その他の質問事項**  
●燃やすごみ指定袋支援措置について



うめもと ひであき  
梅本 秀明 議員

## 人口減少と行財政運営まちづくりについて

**問** 本市の人口は、9万8千人、26年後の2040年には2万6千人減の7万2千人になるとい

う。推計があり、人口減少は大きな問題である。市民税、固定資産税、交付税の減少により今後10年間で70億という財源不足が生じ、健全度70%、80%である経常収支比率は、平成30年度には98%前後となり、投資的経費を抑制しなくてはならない。

長期総合計画・基本計画は大幅な見直しをすべき時期で、公共マネジメント、市債発行の抑制・市保有の遊休地の売却による財源確保・事業仕分けなどにより、選択と集中が必要となる。また、地方債の繰上償還は行わず、まちづくりの事業に投資を行い地域の活性化に取り組みべきと思うがどうか。また、将来の人口を何万人と想定するの

か。

**答** 10年後の目標人口は設定しない。推計人口を前提とした計画を策定し、可能な限り人口の減少を抑える。

**問** 人口減少により税収減となるが財政、事業計画に支障はないのか。

**答** 歳入状況は厳しい。建設事業については合併特例債の活用や選択と集中による市債の発行抑制と残高縮減を図る。

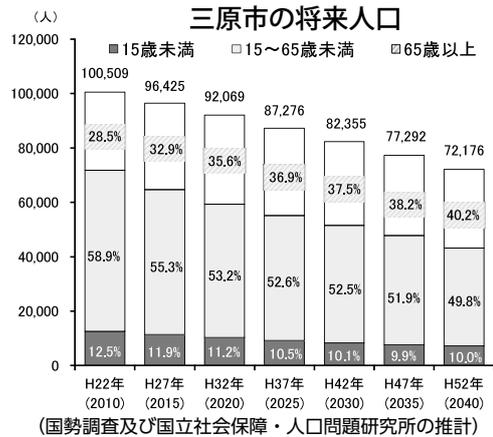
**問** 人口減少により本市が計画をしている事業については根本的な見直しの必要があると思うがどうか。

**答** 今年度中に27年、31年の5カ年の新たな財政運営方針を策定し、施設の長寿命化、統廃合、適正配置などの効率化を図ると

ともに、事業の改善・廃止あるいは民間の活用などを積極的に取り組む。

**問** 人口増加への取り組み対策は。また、子育て支援として義務教育課程における教材費、給食費を負担する考えはあるか。

**答** 可能な限り人口の減少を抑え、活力を失わないまちづくりを目指す。三原・本郷駅周辺は都市生活拠点とし、久井・大和地域の中心部は地域生活拠点とし、コンパクトシティ化を進める。企業誘致、定住促進対策、雇用創出、観光促進に積極的に取り組む。教育・子育てについては、保護者の要望に応じていく。



## タムシバ群生を観光資源に



りきた ちゅうひち  
力田 忠七 議員

**問** 八幡町の竜王山から大峰山一帯にタムシバが群生している。見ごろは3月下旬、4月上旬にかけて、山全体が雪化粧の様になり、集落や沿道から美しく眺められる。

このタムシバの花を楽しむための「タムシバ散策道」整備を提案する。

また、散策道を小童山まで延長すると渋川義隆城主の「小童山城跡」の歴史・文化が探訪ができる。散策道整備で八幡町の観光のグレードをあげたいと考えるが。

**答** 自然が作り出す美観は、観光振興を推進する上で重要資源である。タムシバ散策道を観光施設として整備していくには、多額の費用や整備後の管理などの問題があり、小童山城跡なども含め将来的な課題として受け止め、今後北部地域の振興に向けて、これらの

観光資源との連携などを研究していく。

**問** 北部地域の観光資源との連携などを研究していくとのことであるが、県の森づくり事業等を活用した整備もあると思うが、農林サイドとしての考え方を聞きたい。

**答** 御調八幡宮付近の山林に、平成25年度ひろしまの森づくり事業で、百年杉の手入れや散策ができる約300mの歩道の整備を行った。タムシバ散策道の整備にあたっては、対象となる山林所有者の協力や整備後の維持管理が必要であり、引き続き情報収集に努め県と協議を行うとともに市の関係各課・教育委員会とも連携を図っていく。

**問** 森づくり事業について、散策道を小

童山城跡まで延長して、城主の渋川義隆と小早川隆景の関係をひもといて「小早川450年祭」の中に記録できないものか、教育長に考えを聞きたい。

**答** 三原城築城450年事業を起点に、本市の歴史などを、子供たちにかかりやすく伝えるということも、教育委員会として大きな務めと考えている。

ふるさとは歴史があり今があるということを伝え、本心に三原を愛してほしいし、三原に愛着のある心を培うことが大切であると考えている。



タムシバの群生地 (竜王山山麓)